

体とする長沙黄興国家級生態工業モデルエリア、リン化学工業生産過程からの廃棄物の高効率の利用を特徴とする魯北国家級生態工業モデルエリアは、国家環境保護総局の検討組織で承認された。旧工業エリアの再建設と産業構造の調整を目標とする遼寧省循環経済試験点および地元の資源的優位性をもって新しい産業構造を構築しようとする貴陽市循環経済エコシティ試験も現在実施中である。そのほか、一部の省と都市も実情に合わせて関係試験を実施している。例えば、江蘇省は現在第一次と第二、第三次産業の循環経済の構築を組織している。一部の企業も自発的に内部の産業組み合わせと物質循環を行なっている。天津経済技術開発区、登封発電所がその例である。循環経済と生態工業の建設が今後全国で勢いよく発展する傾向である。

3、循環経済を建設する中で国家環境保護総局各業務部局の位置づけと役割

循環経済を発展させ、環境を保全し、経済成長の質を向上させるといった外国の経験を参考にし、中国環境汚染の深刻さにより、循環経済を発展させる中、国家環境保護総局の機能は全国の循環経済活動の組織と調整、指導である。各業務部局の責務は以下となる。

(1) 政策法規司：循環経済を推進する法律システムの研究を組織し、循環経済を発展させる法律と政策、管理制度を制定する。

(2) 科学技術標準司：循環経済を発展させる技術方法システムと指標システムの構築を組織し、循環経済を発展させる技術コンサルティングチームを組織と支援をする。なお、循環経済発展計画と案の制定、生態工業モデルエリアの建設と循環経済試験活動につき、地方を指導する。

(3) 汚染抑制司：汚染抑制の具体的なタスク（例えば、漢方医療系ゴミや廃電池、廃電子製品、廃棄物輸入の管理などの問題）と連携して、循環経済に関する活動を行なう。

(4) 自然司：主に生態省の創設などの活動を担当する。

3.3 中国の研究機関による循環経済の研究状況

循環経済が中国で芽生えるにつれて、この分野に注目する研究機関が次第に多くなってきた。目下、主に以下のような研究機関がある。

1、中国環境科学研究院国家クリーナープロダクションセンター。研究は主にクリーナープロダクションと生態工業理論、エリア建設企画、クリーナープロダクション技術などに集中している。現在、科技部の重点プロジェクト「循環経済及び生態工業の発展」を担当している。

2、清華大学の関係研究は三つに分けられている。一つ目は、錢易院士をリーダーとするチャイナカウンシル「クリーナープロダクション及び循環経済研究チーム」で、このチームはすでに研究を終了させ、2003年にはチャイナカウンシルに報告をした。その研究は主に循環経済の概念と外国の経験、国内の実践、通常の政策的提言に集中している。二つ目は清華大学化学工業学部（金涌院士）で、研究の重点は化学工業における循環経済発展モデルなどの技術領域となっている。三つ目は清華大学3E（経済、環境とエネルギー）研究院で、現在物質の流れなどに関する研究を行なっている。また、国家発展改革委員会の委託で、中国循環経済発展戦略研究をスタートしようとしている。

3、北京以外の大学と研究機関。同濟大学（諸大建教授）と東北大学（陸鐘武院士）なども、循環経済の理論研究を多く行なってきた。2003年の10月には、上海大学は循環経済研究院を設立した。

中国社会科学院計量経済研究所も循環経済の理論及び計量モデル研究に積極的に参加している。

3.4 国家環境保護総局によるドイツ及びデンマーク視察ミッションの成果

2003年9月8日から14日まで、ドイツ経済協力及び発展部ドイツ技術協力会社の招聘で、国家環境保護総局の汪紀戎副局長ら6人はドイツを訪問した。ついでに、デンマーク環境省の招聘で、当代表団は14日から18までデンマークを訪問した。訪問の目的は主に両国の循環経済関係実践と政策の策定を視察し、二国間環境協力を推進することである。行政関係者との面会のほか、訪問団はドイツ技術協力会社（GTZ）がベルリンで主催した循環経済セミナーに参加した。また、現場調査とヒアリングは今回の訪問の重点と主要活動であり、その内容は工業共生エリア